

感染管理認定看護師(手術室 新田)

## 新型コロナウイルスについての情報

9月12日にファイザー社及びモデルナ社の2価のオミクロン株対応ワクチン(従来株/オミクロン株(BA.1)) (以下、「2価のオミクロン株対応ワクチン」)による追加接種が薬事承認されました。

### ★効果は?

従来型ワクチンと比較し、オミクロン株(BA.1)の中和抗体価の上昇に優越性が確認され、オミクロン株(BA.4/5)に対しても一定の中和抗体価の上昇が見られています。2価のオミクロン株対応ワクチンの追加接種により、短い期間である可能性はあるものの、オミクロン株に対する感染予防効果や発症予防効果も期待されています。

### ★接種対象は?

初回接種を完了した12歳以上の者(2回目の接種まで終了している人)

※ファイザー社:12歳以上 モデルナ社:18歳以上

### ★ワクチン接種間隔は?

最終接種から5か月→短縮する方向で検討中らしい

### ★センターで集団接種はできる?

実施する方向でただいま準備中



## スムーズなワクチン集団接種のために...

### ICTからのおねがい

### ★自身が最後にワクチンを接種したのはいつか、確認してください★

おそらく2価のオミクロン株対応ワクチンを接種するときは、お住まいの自治体から送られるワクチン接種券が必須になります。配布方法は自治体によって異なることが予想されます。接種間隔が過ぎていなくても一律に接種券が配布されたり、接種間隔が過ぎていのに配布されず、申請が必要であったりする可能性があります。前回の接種証明は必ず手元に置き、いつでも確認できるようにしておいてください。随時、職員担当やICTよりワクチンについてのアナウンスをしていきますのでよろしくお願いいたします。



今シーズンはインフルエンザの流行も懸念されています。すでにお伝えしていますが、11月には職員を対象にインフルエンザワクチンの集団接種も予定しております。

皮膚・排泄ケア認定看護師(外来 大塚)

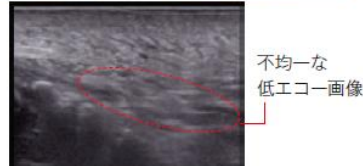
## 深部部損傷褥瘡(Deep Tissue Injury: DTI)疑いは、

表皮剥離のない褥瘡に限定することなく、急性期褥瘡で皮下組織より深部の損傷が疑われる病態を含むため、深部損傷褥瘡(DTI)とは異なる。DTIとはNPUAPが2005年に使用した用語である。表皮剥離のない褥瘡(Stage I)のうち、皮下組織より深部の損傷が疑われる所見がある褥瘡をいう。 ※NPUAP(米国褥瘡諮問委員会: National Pressure Ulcer Advisory Panel)

暗赤色~暗紫色の発赤の場合は阻血障害を起こしている範囲が皮下組織、筋肉まで及んでいる可能性があるため、DTI疑いと評価する。



図5 深部損傷褥瘡(DTI)疑いの褥瘡(エコー画像)と1か月後の状態(全層損傷となった例)



不均一な低エコー画像

## 褥瘡対策委員会では

DTI疑い患者に対し深い褥瘡への移行を防ぐため、褥瘡部の圧迫をしないこと、エコー検査を推奨しています!!  
DTI疑い患者→受け持ち看護師は専任看護師・外来大塚へ報告  
→主治医・放射線科小林技師へ報告→エコー検査検討

### DTI疑いのアセスメント

- 視診・触診・補助データ(発生経緯、血液検査、画像診断等)から判断する。
- 1. 視診: 発赤、紫斑、浮腫、水疱、びらん、浅い潰瘍など多彩な所見を呈している。皮膚が深い赤色、紫、栗色の変色や、血疱の所見があるとされるが、急性期の皮下脂肪の変化は視診のみでは把握しにくい。経時的な観察や触診を併用して判断する。
- 2. 触診: 皮膚の硬さや皮膚温、疼痛も合わせて観察する。
- 3. 画像診断: ①X線単純写真、②CT、MRI、③エコー画像診断法
- 4. 血液生化学的検査: 血清中のクレアチニンホスホキナーゼの使用が有用
- 5. 観血的な処置
- 6. 経時的な観察(毎日アセスメントを行う)

改定DESIGN-R2020コンセンサス・ドキュメントより引用、マニュアルP111~116参照

「改定DESIGN-R®2020コンセンサス・ドキュメント」の内容は、日本褥瘡学会のホームページより無料ダウンロード可能